

地域密着型特養相談員連絡会 FMC による地域に認知症ケアの理解を広めるための活動

広島県認知症介護指導者 小代 桜

キーワード: ソーシャルアクション 他法人との連携
自主的な活動

活動の概要(活動の主体:法人)

【活動目的】

同地域にある地域密着型特養の相談員、社会福祉士が自主的に連絡会(地域密着型特養相談員連絡会 FMC)を作り、地域住民や企業に認知症ケアを伝え、府中町を住みやすい地域にすることを目的とした活動

【活動内容】

月に1回、仕事終わりに3つのうちのどこかの施設に集まり、毎月の活動内容を話し合い、活動していく。寸劇を取り入れた介護講座を主に地域に向けて行っている。小学校や銀行、スーパー、介護福祉士会、地域の高齢者の集まり、認知症カフェなどで講演している。

活動のきっかけ、背景(社会福祉士としての立場で)

平成 26 年に近隣の地域密着型特養の相談員とユニットリーダーの合同勉強会を始めたが、法人間の考え方が違い継続が難しくなった。平成 27 年に介護保険法の改正があり、特養相談員も地域に出るよう通知が厚生労働省からあり、平成 26 年に立ち上げた勉強会を同じ地域に目を向けて地域を良くする活動に転換するため、改めて活動の意味を2つの法人で話し合った。平成 27 年、府中町にもう一つ地域密着型特養ができ、3つの特養相談員、社会福祉士が連携して地域の方々に認知症ケアを伝える活動を始めた。私自身が認知症介護指導者研修の修了後、地域のことをしたいと考えており、研修を修了したこともひとつのきっかけになっている

活動の経過と成果

【活動の経過】

平成 27 年 FMC 活動開始:銀行、スーパーなど地域の企業に認知症ケアの理解を深めるために介護講座開催。FMC のメンバーは府中町内の地域密着型特養相談員 5 名。周知のために FMC 独自のグッズを作り活動時にはそれを着用した(パーカー、バッジ、T シャツなど)。毎月 1 回互いの施設で意見交換を実施。役場担当者や社協の職員も参加した。

平成 28 年:ミニパンフレットを作成し地域に周知し、地域の認知症カフェで介護講座を開催。社協や役場にも FMC の存在を知ってもらうために訪問して説明なども行った。

平成 30 年:府中町の人権委員の研修や、いきいきサロンの活動に呼ばれて、介護講座を開催する。

平成 31 年から:地域の認知症カフェ、小学校での介護講座の活動開始。介護福祉士会からの依頼も受ける。介護福祉士会や社会福祉士会にもそれぞれの会員が活動を報告する中で、研修講師として依頼を受けたり、社会福祉士の行っているカフェに呼ばれたりするようになった。府中町という地域を超えた活動もはじまった。

令和 2 年:コロナで直接の活動が難しいため、オンライン会議を実施した。社協や小学校から研修教材づくりを依頼され、寸劇をビデオで撮影し、グループワークをオンラインでつなぐなどしながら活動継続している。

【活動の成果】

社協や地域のカフェ、小学校からの依頼が年々増えていることが成果としてあげられる。最初は「FMC」について地域の方々の理解を得られなかったが、現在は活動を Facebook で流したり、施設のブログの掲載により、依頼が増えてきている。コロナ禍でも小学校からオンライン介護講座の依頼があり、活動は継続している。

今後の展望

オンライン教材づくりの依頼をきっかけに、遠くでも繋がるのが出来始めている。現在は町を超えて他の場所からの依頼もオンラインで対応している。今後はコロナが収まって、一方ではこのオンラインの活動が残るのではないかと考えているのと、このようなことをさらにチームオレンジに組み込みながら、府中町独自の活動につながればと考えている。

こちらの事例報告は、「認知症介護指導者養成研修等のアウトカム評価に関する調査研究事業報告書(令和2年度老人保健健康増進等事業)」の巻末資料【認知症介護指導者の活動事例】からの抜粋です。